

中央教育審議会答申

「令和の日本型学校教育」の構築を目指して

～全ての子どもたちの可能性を引き出す、
個別最適な学びと、協働的な学びの実現～

1

社会背景

Society 5.0 時代

予測困難な時代

デジタル化・オンライン化

2

子どもたちに育むべき資質・能力

- ・自分のよさや可能性を認識する
- ・他者を価値ある存在として尊重する

多様な人々と協働しながら……

- ・豊かな人生を切り拓く
- ・持続可能な社会の創り手となる

3

日本型学校教育とは

知
徳
体

…学習機会や学力の保障

…全人的な発達や成長の保障

…心身の健康の保障

4

成果

国際的にトップクラスの学力

学力の地域差の縮小

規範意識・道徳心の高さ

5

新しい動き

新学習指導要領の着実な実施

学校における働き方改革

GIGAスクール構想

6

新しい動き + 日本型学校教育



令和の日本型学校教育

7

子どもの学び

個別最適な学び

指導の個別化 学習の個性化



協働的な学び



一体的に

8

<9年間を見通した新時代の義務教育>

- 知・徳・体のバランスのとれた質の高い義務教育を目指す
- 義務教育において決して誰一人取り残さないことを徹底

◆ICT環境を最大限活用し「個別最適な学び」と「協働的な学び」を充実

◆小学校高学年における教科担任制の導入
(専門性の高い授業、教師の負担軽減)

◆不登校児童生徒への対応
(スクールカウンセラー・スクールソーシャルワーカーによる相談体制の整備、教育支援センターの機能強化、自宅等でのICT活用等)

◆いじめの重大事態、虐待事案等への適切な対応



9

<新時代の特別支援教育>

- 全ての教育段階において、インクルーシブ教育(障害のある子どもと障害のない子どもが共に学ぶ仕組み)の理念を踏まえ、全ての子どもたちが適切な教育を受けられる環境整備

◆特別支援学級の子どもが、通常の学級の一員として活動する取組の充実

◆通級による指導体制の充実

◆障害のある子どもの自立と社会参加

◆学校における医療的ケアの実施体制の構築、
医療的ケアを担う看護師の人材確保や配置等の環境整備



10

教職員の姿

教職生涯を通じて学び続ける

子ども一人一人の学びを最大限に引き出す

子どもの主体的な学びを支援する
伴走者として



11

子どもの学びや教職員を支える環境

ICT環境の整備

(1人1台端末に適合した教室環境・教師のICT環境整備、校務の効率化)

学校施設の整備

(耐震化、トイレ改修)

学校図書館の整備

(図書の実質、学校司書の配置)



12

課題 子どもたちの多様化

特別な支援が必要な児童生徒
外国人児童生徒 貧困 虐待
性同一性障害、性的指向・性自認

不登校児童生徒の増加

いじめの重大事態の発生

13

課題 教師の長時間労働

新しい課題への対応
子どもの心のケア
保護者対応
部活動指導

新型コロナウイルス
感染症対策

教員採用倍率低下・教員不足

14

課題 少子高齢化・人口減少

学校教育の維持・質の保障
・学校規模の縮小化 ・部活動の継続

持続的で魅力ある学校教育の実現
・ふるさと教育 ・地域素材の活用
(小樽の歴史、おたるの自然、日本遺産…)

15

まとめ

これまでの日本型学校教育の成果を継承しつつ
どちらの良さも適切に組み合わせ生かしていく
一斉授業 ⇔ 個別学習
アナログ ⇔ デジタル
対面 ⇔ オンライン

決して誰一人
取り残さない

～令和の日本型学校教育の構築を目指して～

16